

青森

青森市の青森北高校と青森第一高等養護学校の生徒が12日、ボッチャを通じて交流を深めた。両校の生徒は互い

に声をかけ合いながら試合を楽しみ、性別や年齢、障害の有無を問わずプレーできるパラスポーツの魅力に触れた。
(工藤慎子)



ボッチャを楽しむ青森北と青森第一高等養護の生徒たち

青森北高と
第一高養生

ボッチャ通し交流

声かけ合い試合楽しむ



VRゴーグルを装着して、VRボッチャを体験する生徒たち

近隣に位置する両校は、日頃から授業などで生徒同士の交流の機会を設けており、今年は9、11月にも交流会を行った。青森一高養の体育館で行われたボッチャ交流会

には、青森北高スポーツ科学科の3年生39人、青森一高養の生徒7人が参加。6チームに分けて、通常のボッチャのほか、仮想現実（VR）技術を使った「VRボッチャ」で対戦した。生徒たちは、同じチームの仲間に「頑張れ」「うまい」などと声をかけたり、ハイタッチしたりしながら競技に熱中していた。

VRボッチャに挑戦した青森一高養3年の木津谷楓さん（17）は「最初はVRに慣れなくて難しかったけれど、青森北の生徒がアドバイスしてくれて上手にできるようになった」と笑顔。青森北の佐々木歩夢さん（18）は「ボッチャはチームで戦うので、仲間と協力する面白さを学んだ。とても楽しめた」と語った。

この画像は当該ページに限って

東奥日報社が利用を許諾したものです。